

コロナ禍におけるがん患者サポートに関するアンケート調査報告（概要版）

*本調査は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）課題番号「JP22K10397」により実施した。

研究課題名「がんピアサポートの質保証に向けたハイブリッド型ピアサポート運用システムの構築」

研究期間：2022年4月～2024年3月

研究責任者：大野裕美（名古屋市立大学大学院）

分担者：蒔田寛子（豊橋創造大学）、小松弘和（名古屋市立大学大学院）

1. 調査目的

ポストコロナに向けたがん患者支援の在り方を検討するために、院内ピアサポートおよび患者会活動に関する新型コロナウイルスの影響を明らかにする。得られた結果は、がん相談におけるピアサポートの質保証を備えた運用システムの構築に反映させる。

2. アンケート調査の概要

- 1) 調査期間：2023年2月16日（木）～3月17日（金）
- 2) 調査対象：全国451箇所のがん診療連携拠点病院（2023年1月現在の指定病院数）
- 3) 調査方法：自記式無記名アンケート調査による郵送とウェブ回答の2種類を併用し、選択は対象機関に一任した。質問項目は、郵送、ウェブ回答とも同一とし、アンケートの研究協力確認欄のチェックがあるものだけを分析対象とした。
- 4) アンケート項目：17項目、うち記述項目が3項目
- 5) 研究倫理：名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会承認（管理番号60-22-0114）
- 6) 回答数：220病院（48%）、郵送回答165病院、ウェブ回答55病院

3. 調査結果の概要（N=220）

注）患者会は、複数人のメンバーが集会して互いの対話によって悩みを解決するグループ・ピアサポートのことを指し、ピアサポートは個別に悩み等の相談対応を行う形式のことを指している。

院内で行われている患者サポートは、がんサロンを活用した患者会や情報提供が多かった。

<コロナ前>

①がんサロンの運用

- がんサロンは使用する時だけ開放している病院が多かったが、特定の場所はない、そもそも設置がない等、がん患者や家族が気軽に使えるように整備されていない病院もあった。
- がんサロンで行われていることは、患者会や情報提供が多かった。

②患者会（グループ・ピアサポート）支援

- 患者会は、がん種を決めないで開催している病院が多かったが、種別では乳がんが最も多かった。
- メンバーが固定化されて新規参加者が集まらない等、参加者集めに苦労していた。
- 患者会代表者の交替や運営メンバーの高齢化により、活動の維持・継続に対する課題を抱えていた。

③ピアサポートの現状

- ピアサポートは、医療職とのがん相談連携という視点よりも、患者会活動の一環として捉えられている傾向があり、活用方法がよく分からない病院が多かった。
- 活動しているピアサポーターの年代で最も多かったのが60代であり、性別では女性のほうが顕著に多く、男性のピアサポーターは少なかった。
- ピアサポーターへの謝礼は無いところが多かったが、交通費と有償費を支給している病院もあった。
- ピアサポーターを導入していない病院も多かった。

<コロナ禍>

①新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスによる院内活動の休止によって、新たにオンラインで患者会等を試みたものの参加者が集まらず、オンラインの活用方法に課題を感じていた。
- オンライン活用の課題として、情報管理やスキル、機器の整備などハード面の課題が挙げられた。
- 患者からは対面での活動を希望する声もあった。
- 新型コロナウイルスの影響により、ピアサポートの導入や、サロンの活性化に向けた取り組みが保留となった。
- 今後の対応として、オンライン相談の整備とともに、対面も交えたハイブリッドな患者サポートの必要性が示された。

4. 今後の方策

①対面とオンラインを状況に合わせて活用するハイブリッド相談の仕組み

②コロナ禍で後退した患者会活動へのサポート

③ピアサポーターの育成と活用の仕組みづくり

*ご協力いただきました、がん診療連携拠点病院の皆様方、あらためて感謝申し上げます。

回答結果の詳細をお知りになりたい方は、下記の連絡先まで、ご一報ください。

なお、この報告書概要版は、出典を明記していただくことで、転載、複製を認めます。

<連絡先>

名古屋市立大学大学院 医学研究科 大野裕美

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1番地

E-mail : hi-ono@med.nagoya-cu.ac.jp